

企画展のご案内

こぐまちゃんとしろくまちゃん[🐻]

絵本作家・わかやまけんの世界



『こぐまちゃんどうぶつえん』(こぐま社)より
©わかやまけん

展覧会名	「こぐまちゃんとしろくまちゃん 絵本作家・わかやまけんの世界」
会 場	岐阜県美術館 展示室3 (岐阜市宇佐4-1-22)
会 期	令和5年7月21日(金)～9月24日(日) 10:00～18:00 ※休館日:毎週月曜日(祝・休日の場合はその翌平日) ※夜間開館:7月21日(金)、8月18日(金)、9月15日(金)は20:00まで開館 ※展示室の入場は閉館の30分前まで
観 覧 料	一 般 1,000(900)円 大学生 800(700)円 高校生以下無料 ()内は20名以上の団体料金 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証の交付を受けている方およびその付き添いの方(1名まで)は無料
主 催	岐阜県美術館、中日新聞社
特別協力	こぐま社
協 力	偕成社、銀の鈴社、クレヨンハウス、佼成出版社、至光社、 社会福祉法人 全国社会福祉協議会、世界文化社、童心社、ポプラ社、ほるぷ出版

本資料に関するお問い合わせ

美術館 Web サイト: <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>岐阜県美術館 広報担当: 後藤正行 担当学芸員: 鳥羽都子
〒500-8368 岐阜市宇佐 4-1-22

TEL 058-271-1314 FAX 058-271-1315

E-mail: kouhougifukenbi@govt.pref.gifu.jp

本展覧会について

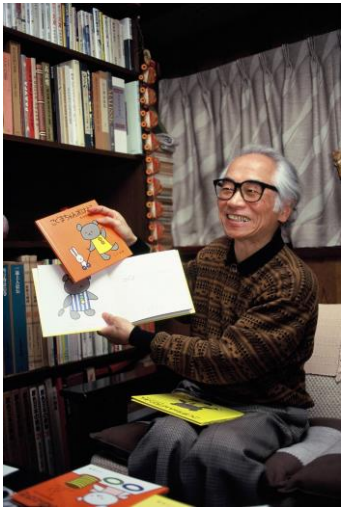
「こぐまちゃんえほん」の生みの親、わかやまけん（若山 憲 1930-2015）の多彩な創作活動を探る、はじめての回顧展です。

1930年、岐阜市に生まれた若山は、戦後ほどなく童画と出会い、強い憧憬を抱きます。グラフィックデザイナーを経て上京し、絵と文を手掛けた初の創作絵本は、現代社会への警鐘を淡い色調の幻想的な表現に託した『きつねやまのよめいり』（1968）でした。同作は、岐阜の特産品である提灯を創作の源泉のひとつとしています。

若山の最もよく知られた作品「こぐまちゃんえほん」シリーズは、「日本の子どもがはじめて出会う絵本を作りたい」という思いのもとに集団制作によって誕生しました。1970年の記念すべき第1作以来15作が生まれ、半世紀を超えて読み継がれる大ロングセラーとなっています。本展では、知られざる創作の過程をご紹介します。

また、独特のユーモアあふれる「おばけのどろんどろん」シリーズ、民話をテーマとした絵本や詩集のための挿絵、雑誌の表紙原画、絵本制作の資料など約230点を通し、若山の色あせることのない豊かな作品世界を全世代におくります。

若山憲 略年譜

- | | |
|--|--|
| <p>1930(昭和 5)年 1月29日、岐阜県岐阜市美園町に生まれる。
生家は商家で下駄の卸をしていた。</p> <p>1936(昭和 11)年 岐阜市立明德尋常高等小学校に入学。高等科2年まで学ぶ。病弱で、自然の中で草花の絵を描くような静かな子どもだった。</p> <p>1945(昭和 20)年 12月、『週刊少国民』を偶然目にとめ、魅了される。以後心待ちにして購読を続ける。</p> <p>1947(昭和 22)年 この頃、屋外看板会社の図案社にいた画家志望の田邊四郎から絵画、童画について教わり強く惹かれる。</p> <p>1948(昭和 23)年 この頃から加藤孝司（岐阜商業美術家集団、日本宣伝美術協会）のデザイン事務所に勤務、師事する。岐阜市美術展の商業美術部門に出品し始める。</p> <p>1954(昭和 29)年 上京して東京都板橋区に住む。</p> <p>1956(昭和 31)年 行動美術研究所修了。</p> <p>1957(昭和 32)年 童心社の編集長・稲庭桂子から声を掛けられ、最初の紙芝居、『クリスマス おめでとう』（高橋五山作、童心社）の絵を担当する。</p> <p>1963(昭和 38)年 佐藤智恵子と結婚。人前結婚で、まど・みちおが立会人代表を務め、挨拶をする。</p> <p>1964(昭和 39)年 長女が誕生。この頃、練馬区に新居を構える。</p> <p>1965(昭和 40)年頃 画家・二俣英五郎の紹介でこぐま社の創立者佐藤英和と出会う。</p> <p>1967(昭和 42)年 長男が誕生。詩誌『野火』の表紙絵を担当する。「ロンパールームのほん」第3号の『りぼんをつけた おたまじゃくし』（わだよしおみ文、編集・制作=こぐま社、野村トイ）の絵を担当し、はじめての絵本制作に取り組む。</p> <p>1969(昭和 44)年 初の創作絵本『きつねやまのよめいり』が第16回サンケイ児童出版文化賞推薦、NHK推薦図書に選出され、原画がブラチスラバ世界絵本原画展(BIB)で展示される。</p> <p>1970(昭和 45)年 「こぐまちゃんえほん」シリーズ第1集『こぐまちゃんおはよう』『こぐまちゃんとはーる』『こぐまちゃんとうどうぶつえん』を刊行。以降1977年にシリーズが15冊で完結。</p> <p>1972(昭和 47)年 『しろくまちゃんのほっとけーき』を刊行。</p> <p>1980(昭和 55)年 『おばけのどろんどろん』（ポプラ社）を刊行。</p> <p>1982(昭和 57)年 日本児童文学専門学院（現・日本児童教育専門学校）絵本創作専攻科の講師となる。</p> <p>1984(昭和 59)年 『子そだてゆうれい』を刊行。紙芝居『かぜのかみとこども』が第23回高橋五山賞（画家賞）を受賞。</p> <p>2001(平成 13)年 パーキンソン病悪化のため創作活動を終える。</p> <p>2015(平成 27)年 7月17日、東京都にて死去。</p> |  |
|--|--|

撮影：田中亜人

注目ポイント

■開場式ほか会期中に、「こぐまちゃん」が登場！

○開場式 日 時：令和5年7月21日（金）9：45～10：00（受付：9：30～）

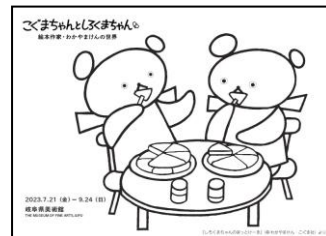
会 場：岐阜県美術館

○7月21日（金）～7月30日（日）にかけて、こぐまちゃん撮影会も開催予定。

※詳細は岐阜県美術館ウェブサイトでお知らせしていきます。

■「こぐまちゃんのぬりえ」をプレゼント！

会期中、ご来場の方に「こぐまちゃんのぬりえ」をプレゼントします。先着5,000枚で無くなり次第終了となりますので、展覧会とともに楽しみください。（おひとりにつき1枚まで）



■様々な連携企画を実施します！

岐阜県図書館が連携企画として、おはなし会を開催（7月23日（日））。その他、当館アートコミュニケーター（～ながラー）によるオリジナル企画イベントも開催します。

連携企画の詳細は、岐阜県美術館ウェブサイトでお知らせしていきます。

展覧会構成

第1章 紙芝居からの出発 こぐま社との出会いまで

若山憲の絵本作家としての仕事は、紙芝居からはじまりました。少年時代より童画に魅せられ、18歳でグラフィックデザインの世界に足を踏み入れ、24歳で上京します。

その後、教育紙芝居の普及に取り組んでいた稲庭桂子（1916-1975）に声を掛けられ、10年間で18作ほどの紙芝居に取り組み、1967年にはじめて「絵本」の制作に携わります。それは書店に並ぶ単行書ではなく、子ども向けテレビ番組の会員向けに企画された『ロンパールームのほん』でした。その創刊号から制作にあたったのが、のちに「こぐまちゃんえほん」シリーズを生み出すこととなるこぐま社でした。同社を創立した佐藤英和（1928-2022）、児童文学評論家の柳内達雄（1911-1978）、児童文学作家の森久保仙太郎（森比左志/1917-2018）、劇作家の和田義臣（1913-2006）らが編集委員となり、合議制にて編集を行った『ロンパールームのほん』は、複数の作者によるお話や歌などを集めた、雑誌的性格を持つ絵本でした。

表題作の絵を担当した『りぼんをつけた おたまじゃくし』では、春先の池のなかで、おたまじゃくしの繰り広げるちょっとした冒険が描かれます。翌年発表された『きつねやまのよめいり』は、若山がこぐま社から出版した初の単行創作絵本で、淡く優しいリトグラフの色彩が評価されました。

第1章では、初期作品とともに、科学・知識絵本『原色科学ブック』の挿絵も紹介します。



『りぼんをつけた おたまじゃくし』
（1967年、野村ト一）より 原画／個人蔵



『きつねやまのよめいり』（1978年改訂新版、こぐま社）より
リトグラフ／こぐま社蔵

第2章 こぐまちゃん、しろくまちゃん誕生

第2章では、こぐまちゃん、しろくまちゃんにスポットを当てて紹介します。

1970年、「こぐまちゃんえほん」シリーズが誕生しました。当時の日本にはまだ「赤ちゃん絵本」というジャンルが存在せず、こぐま社の創業者である佐藤英和は、日本の作家による「日本の子どもたちがはじめて出会う絵本」を創りたいと考えていました。そんな佐藤の呼びかけのもと集まったのが、児童文学者で歌人の森比左志、劇作家の和田義臣、グラフィックデザイナー出身の若山憲でした。4人は毎週のように集まっては構想から話し合い、制作を進めていきました。

主人公には、子どもが大好きなくまのぬいぐるみが選ばれ、「こぐまちゃん」と名付けられました。年齢は、対象となる読者と同じ2歳です。

読者である子どもたちが絵だけで物語を把握できるように、若山にはこぐまちゃんが何をしているかがわかる絵が求められました。そのため、こぐまちゃんには常に動きがあります。フォームは「こけし」、洋服は「ポンチョ」を原型とし、何年たっても古さを感じさせないシンプルな形を追究しています。

色はスミ（墨）、アイ（藍）、グレー、ミドリ、オレンジ、キイロという6色で展開しており、日本らしい落ち着いた色が用いられているのが特徴です。また、子どもたちに濁っていない美しい色を届けるために、それぞれの色に対して専用のインクを作り、1色ごとに版を描き分けて、特色印刷で刷り重ねていく方式で制作されました。



『しろくまちゃんのほっとけーき』(1972年、こぐま社)より
リトグラフ／こぐま社蔵

第3章 絵を読む絵本「純絵本」をめざして

まだ文字を読むことができない小さな子どもたちが絵本のページを開くとき——その目は、文字ではなく「絵」から物語を読み取ります。絵本作家として一貫してめざしてきたのは、言葉が主となるのではなく、絵の力で場面や設定を描写し、お話を伝えることができる絵本でした。若山はこれを「純絵本」と呼び、言葉で語る「物語絵本」と区別します。

第3章では、絵を視覚言語とするこの「純絵本」を志向する若山が、1970年代から80年代にかけ、文と絵の両方を手がけた創作絵本の数々をご紹介します。



『おばけのどろんどろんとぴかぴかおばけ』
(1981年、ポプラ社)より 原画／個人蔵

第4章 ひろがる わかやまけんの世界

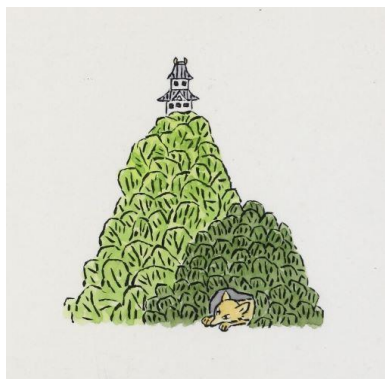
第4章では、多岐にわたる表現と、人との出会いによる世界観のひろがりをご紹介します。

「純絵本」を提唱し、絵が物語のすべてを語る絵本作りを実践してきた若山ですが、その一方で、児童文学者、劇作家、詩人などとともに、たくさんの作品を制作しています。

『てぶくろをかいに』などの名作の絵本、口から口へと語り継がれた民話の絵本、詩集など多岐にわたりますが、詩情あふれる淡い色彩の水彩画、詩集に添えられたシンプルな線描のカットなど、それぞれの文章が持つ独自の世界に合わせて生み出された作品からは、幅広い表現や世界観を垣間見ることができます。

『ごんぎつね』は、新美南吉が18歳のときに手がけた、教科書でもおなじみの名作です。本書には表紙・裏表紙以外は単色の挿絵がよせられています。

民話や郷土玩具など日本独自の造形美があふれる世界も、若山の創作意欲を大いにかきたて、『あかべこのおはなし』や『子そだてゆうれい』などの絵本に結実しています。『子そだてゆうれい』の制作にあたっては、完成された語りに絵を描くことの難しさに直面し、若山にとって大きなターニングポイントにもなりました。



『ごんぎつね』(1978年、ポプラ社)より
原画／個人蔵



『あかべこのおはなし』(1980年、こぐま社)表紙
リトグラフ／こぐま社蔵

第5章 一点で物語る

1953年に創刊し、現在も全国社会福祉協議会出版部より発行が続いている雑誌『保育の友』。子どもの発達段階に応じた保育の内容や、地域性豊かな保育のカリキュラムなどを紹介するこの雑誌の表紙絵を、若山は1982年の4月から1992年の3月までの約10年間にわたって担当しました。技法や描き方などさまざまな工夫して、「絵が物語る」、一枚の作品世界を形成しました。

1983年の4月からは、絵と合わせて作者による「表紙のこトバ」も掲載されるようになりました。

絵についての単純な説明ではなく、読む人が物語を想像するきっかけとなるような文章が多く、その素朴な問かけが、絵のなかにわれわれを優しく引き込んでくれます。

若山は、題材や画風を自由自在にいとまたやすく変化させているように見えますが、その裏には「ひらめき」を大切にし、それを洗練させる多大な努力が詰まっているのです。『保育の友』表紙絵には、そんな若山の真摯な姿勢が詰め込まれています。

第5章では、これらの表紙原画と、実際に出版された雑誌の表紙とを一部並べてご紹介します。



『保育の友』1986年8月号
(1986年、全国社会福祉協議会出版部)
表紙原画／個人蔵

■ 関連プログラム（予定）

◆ ナンヤローネ アートツアー

アートコミュニケーション作品《Such Such Such》を体験しながら、展示作品の魅力を味わいます。

日 時：令和5年8月6日（日）14：00～15：30

会 場：岐阜県美術館 多目的ホール、展示室

備 考：申込み方法などの詳細は、岐阜県美術館ウェブサイトでご確認ください。

◆ ナイトギャラリートーク

日 時：令和5年8月18日（金）19：00～19：30

令和5年9月15日（金）19：00～19：30

会 場：岐阜県美術館 展示室3

お 話：鳥羽都子（担当学芸員）

備 考：申込み不要、ただし観覧券が必要

◆ スライドトーク

日 時：令和5年9月2日（土）14：00～15：00

会 場：岐阜県美術館 講堂

出 演：鳥羽都子（担当学芸員）

備 考：申込み不要、定員170名（先着順）

◆ 講演会 わかやまけんと「こぐまちゃんえほん」の誕生

日 時：令和5年9月9日（土）14：00～15：30

会 場：岐阜県美術館 講堂

出 演：関谷裕子（こぐま社元編集長）

備 考：申込み不要、定員170名（先着順）

■ 同時開催 （※会期中、同展観覧券の半券にてご観覧いただけます。）

◆ 「アーティスト・イン・ミュージアム AiM Vol.14 ^{したらく} 設楽陸

公開制作：令和5年7月20日（木）～9月3日（日）

◆ 「没後20年 細江光洋展 「飛弾を撮る」—記録と記憶、交差する眼—

令和5年7月1日（土）～9月3日（日）

◆ 「季節のうつろい 夏から秋へ」

令和5年7月11日（火）～11月5日（日）

◆ 「ルドンコレクションから」

令和5年6月27日（火）～10月1日（日）

◆ 「さかのぼり岐阜洋画史 平成・昭和編」

令和5年6月27日（火）～10月1日（日）

わかやまけんと同世代、あるいは同時期に岐阜市展で活躍した作家たちをご紹介します。ぜひ併せてご覧ください。

■ 展覧会及び関連プログラムの日時については、延期・中止する場合がございます。

詳細は岐阜県美術館ウェブサイトでご確認ください。

(<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>)

岐阜県美術館

検索

岐阜県美術館 企画展

こぐまちゃんとしろくまちゃん

絵本作家・わかやまけんの世界



広報画像貸出申込書

FAX 送信番号：058-271-1315

岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, GIFU

貴社名		ご担当者名	
媒体名	(掲載コーナー、特集名：)		
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL：	FAX：	
	E-mail：		

1. ご紹介いただける場合、貴媒体の情報をお知らせください。

掲載/放送	月	日	発売・放送 (月号) / 発行部数	部
掲載内容				

2. 広報画像はご使用になりますか。

☐ はい 画像データ到着希望日 (月 日) ☐ いいえ (写真は使用せず、文字掲載のみ)

3. 別紙の写真をご参照の上、ご希望の【画像番号】にチェック☑してください。

下記キャプションの作品名称、所蔵を必ずご記載ください。

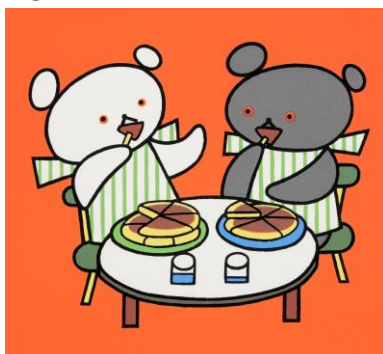
☒	番号	ご掲載時のキャプション表記
☐	①	『こぐまちゃんとどうぶつえん』(こぐま社) より ©わかやまけん
☐	②	『しろくまちゃんのほっとけーき』(1972年、こぐま社) より リトグラフ/こぐま社蔵
☐	③	『りぼんをつけたおたまじゃくし』(1967年、野村トイ) より 原画/個人蔵
☐	④	『きつねやまのよめいり』(1978年改訂新版、こぐま社) より リトグラフ/こぐま社蔵
☐	⑤	『おばけのどろんどろんとぴかぴかおばけ』(1981年、ポプラ社) より 原画/個人蔵
☐	⑥	『ごんぎつね』(1978年、ポプラ社) より 原画/個人蔵
☐	⑦	『あかべこのおはなし』(1980年、こぐま社) 表紙 リトグラフ/こぐま社蔵
☐	⑧	『保育の友』1982年8月号(1982年、全国社会福祉協議会出版部) 表紙原画/個人蔵
☐	⑨	『保育の友』1986年8月号(1986年、全国社会福祉協議会出版部) 表紙原画/個人蔵
☐	⑩	撮影：田中亜人

■広報画像一覧

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



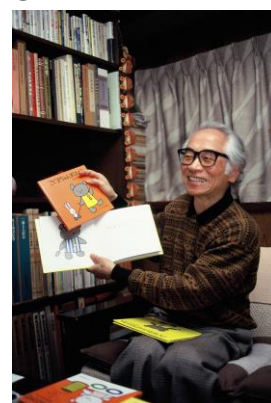
⑧



⑨



⑩



【広報画像使用に関する注意事項】

- 本展広報目的での使用に限ります。
- 展覧会名、会期、会場名は、必ず掲載してください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなどの画像の加工・改変はできません。
- 転載などの2次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- ウェブサイトに掲載する場合は必ずコピーガードをしてください。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録テープ・DVD等を、岐阜県美術館へ1部お送り願います。
- 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は岐阜県美術館までご連絡ください。